

研究テーマ「SST等を活用した学級集団づくり、授業づくり」
～育ちと学びのサポートユニット～

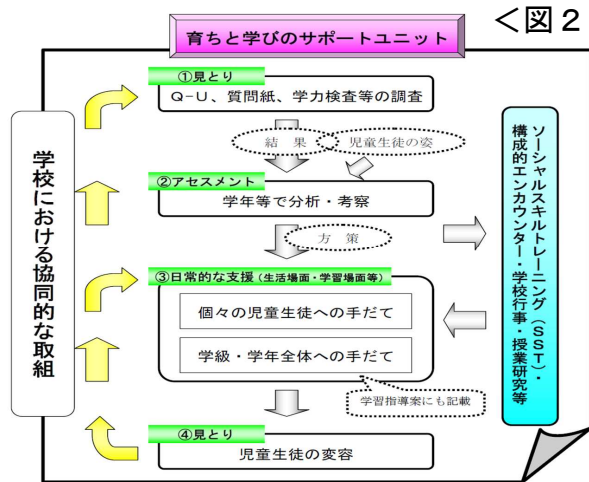
育ちと学びのサポートユニット研究会

1 テーマ設定の理由

近年「学級経営の難しさ」が課題として顕著になってきた。児童生徒のコミュニケーション能力の低下、人間関係の希薄化、規範意識の低下などにより学級集団が成立せず、授業も成立しにくいという学級も見られるようになった。そこで、平成22年度から「育ちと学びのサポートユニット」として、ソーシャルスキルトレーニング（*SST…人と上手にかかわりをもつ技術を身に付けていくための学習）を取り入れながら、「学び合い、高め合いのある授業」の土台となる学級における豊かな人間関係づくりに取り組んだ。（*図1）

当初は、児童に必要とされるであろうスキルは、主に教師の観察法により選定していたが、各学校で実施しているQ-Uや中部教育局が提案した質問紙の結果を分析・考察しながら、児童生徒の必要感にせまるスキルを見極め、実践を進めてきた。

その取組から見えてきたものが、図2のサイクルである。Q-U等の実施校は数多くあるが、その結果を学級担任一人が抱え込み、十分なアセスメントがなされないままに学級の状態が改善されないなど、その結果を活用しきれていない現状があった。



そこで、SSTの取組にとどまることなく、各学級の各種調査結果を学年団等でアセスメントし、日々の生活・学習場面においても一人一人の児童生徒に日常的な支援を行ってきた。複数でアセスメントしたとき、学級の状態のとらえ方には、当然ずれが生じる。その際、そのずれをすりあわせるのではなく、ずれの原因を探っていくながら具体的な支援策を模索してきた。

2 取組の概要

【今年度の取組における重点項目】

(1) 発達段階や学級・学校の実態に応じたSSTの実践

- ① 中部教育局によるSSTプログラムの提供
- ② SST授業研究会

(2) Q-U・質問紙等のアセスメント→日常的な支援

- ① 各学校におけるQ-U・質問紙の実施
- ② 学年部等でQ-U・質問紙等の分析・考察

(3) 豊かな人間性・社会性を土台とした授業づくり

- ① 実践協力校合同研究会・講演会
- ② 教科による授業研究会

【湯梨浜町立東郷小学校の取組】

～CSSを取り入れた授業づくり～

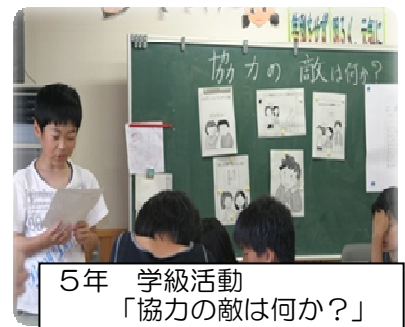
(1) Q-Uの分析と活用

5月に行ったQ-Uの結果を学年部ごとに話し合い、学級に必要なCSSプログラムを選んで計画を立てた。また、必要に応じて、同じプログラムを繰り返し実施した。

(2) CSSを活用した授業（*CSS…学級ソーシャルスキル）

① CSSプログラムの実施

子どもの実態や学級の様子を見とり、必要なCSSプログラムを実施し、様々なスキルを身に付けていった。1単位時間をとってのCSSプログラムは、学期に2つ程度実施し、実態に合わせて繰り返し行ったり、全校共通のプログラムを実施したりした。



実施したプログラムのポイントが分かるように、教室に掲示し、いつでも見るようにした。

②学習場面に応じた CSS

学習過程の中で、一斉指導の時や個別指導の時に合ったスキルを取り入れるようにした。一斉指導の時は、主に話し方や聞き方のスキルを取り入れ、個別指導の時は、支援の必要な児童に合ったスキルを取り入れていった。ペア学習やグループ学習では、話し方や聞き方のスキルの他に、話合いの進め方スキルや声の大きさ、スキルなどを取り入れることができた。

学習場面で CSS を取り入れる場合、教師自身がどこで使うのが効果的なのか、常に考えなくてはならない。そのことを指導案の中に書き入れることで、よりはっきりと CSS を意識して学習場面で生かすことができた。



【琴浦町立東伯中学校の取組】

～質問紙・Q-U の分析・考察を生かした学級集団づくり～

(1) はじめに

本校は「学び合い、伝え合い、高め合う生徒の育成」を研究主題として、小集団での「学び合い」を授業に取り入れてきた。「学び合い」を成立させるためには、わからないことを「わからない」と言えると同時に、「わからない」という声に対して相手が理解できるまでとことん関わることでできる双方向のコミュニケーションが必要不可欠となる。そこで、質問紙調査と Q-U の結果を分析・考察し、学び合いを支える学級集団づくりに生かそうと考えた。

(2) 学び合いや日常生活に生かす～「学び合いの〇か条」～

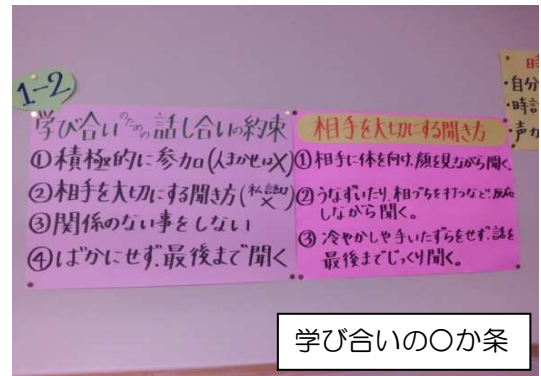
5月に行った質問紙調査の結果を、クラス全体と個々の傾向について各学年で分析・考察した。その結果とクラスの実態を踏まえ、担任の願いと生徒の話合いによって、全クラスが「学び合いの〇か条」を作成した。

「学び合いの〇か条」は教室に掲示し、そのクラスに関わるすべての教員が共通理解し、学び合いの場面だけではなく終学活での話合いの時にも声かけをするなどして、日常的に意識付けができるように心がけた。

(3) 学習場面での個への支援に生かす

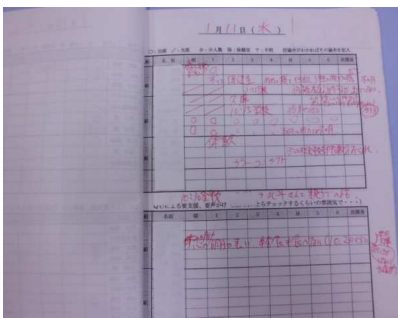
9月に行った Q-U の結果を、浅田指導主事(琴浦町教育委員会)の指導助言のもと、個への支援に生かすポイントについて研修し、分析・考察した。

さらに、11月の公開授業研究会に向けて、鳥取大学 金子周平講師(県教育センタースーパーバイザー)に支援の必要な生徒に対して、具体的にどのような支援や関わりをすればよいか、また、クラスの実態から、よりよい関わりができるようにするためにどんなスキルが必要かなどについてアドバイスをいただいた。その後、そのアドバイスを踏まえ、職員研修において実際にどのような支援をすることができるかについて、アイデアを出し合った。当日の授業では、そのアドバイスが生かされた支援がなされ、生徒たちが生き生きと授業に取り組む姿が見られた。



(4) 普段の生徒指導に生かす

要支援群に属する生徒の名前を挙げ、毎日の行動を記録する表を作成した。朝学活から下校するまで、それぞれの生徒がどのような動きをしていたかを記録し、それに対する教員の指導や対応について、その日の放課後、記録に残してきた。この記録は、毎週月曜日の生徒指導委員会の資料となっており、他学年との共通理解に役立っている。



3 スーパーバイザーの役割

鳥取大学大学院医学系研究科の金子周平講師をスーパーバイザーとして実践協力校に招き、以下の役割を果たしていただいた。特に、11月の公開授業研究会に向けて、スーパーバイザーに各学級のQ-Uの結果を事前に分析・考察していただき、それをもとに各学級の授業を参観していただいた。

授業後は、学級担任とともに懇談し、課題等を抱えている児童生徒への具体的な支援策や、今後、児童生徒に必要とされるスキル等について具体的なアドバイスを多数いただき、11月の授業実践に役立てることができた。

①職員研修会の講師・・・7月26日(火) 於 琴浦町立赤碕中学校

○講義「学級で行うソーシャルスキルトレーニングの意義や魅力」

<意義>

- ・3つの意義 [支援][促進][予防]

・[支援]について

ソーシャルスキル面で遅れがちな児童生徒に分かりやすくスキルを教える。

・[促進]について

子ども同士の交流、先生と子どもの交流を促進する。

・[予防]について

人間関係におけるトラブルや傷つきを予防し、学びのための環境を整える。

- ・自ら行動してみる元気を与えるとともに、子どものいいところも伸ばせる。

<魅力>

- ・枠組みが変わると中身が変わる。

→子どもたちも普段と違う側面を見せてくれる。

- ・定点観察ができる。

→スキルを教えるという軸がある分、子どもたちの変化が分かりやすい。

- ・プランを立てると修正しやすい。

→プラン通りにならなかったとき、そのことが担任の児童理解の修正にもつながり、次のプランも考えやすい。

○SST 演習「めざせ! しずかちゃん!!」

②校内授業研究会の指導助言・・・10月24日(月) 於 琴浦町立赤碕中学校

○研究授業参観

1年A・B組 「あたたかい言葉かけ(かかわり)」

○研究協議

【協議の柱】

- ・授業がねらいにせまる活動となっているか。

- ・今日の学習を今後はどう生かすか。

○指導助言

- ・授業中の反応こそ、授業に生かしたり、伝え返したりしていくことが重要。

- ・練習に向かう前には、一人一人の役割を明確にすることが重要。そのことが活動内容のイメージづくりにもつながる。

- ・「望ましい行動」(スキル)に対する教師の意識が強いと児童生徒は息切れすることもある。そのことを常に教師は留意すること。

- ・時には指導案に隙間をつくり、授業の中で児童生徒の実態に応じた活動を見いだしていくこともできる。

③学校訪問・・・11月1日(火) 於 湯梨浜町立東郷小学校

○授業参観(1年生と4年生)

○学級担任との懇談

- ・わからないことを素直に相手に伝えるためのスキルが必要。

- ・子どもたちの生活から次のスキルを考えていくことも重要になってくる。

- ・いつもグループに属しているのではなく、時には一人の時間を必要としている児童もおり、その時には誘いを断ることもできることをSSTを通して学ばせたい。

④学校訪問・・・11月7日(月) 於 琴浦町立東伯中学校

○授業参観(1年生)

○学級担任との懇談

- ・話合いのスキルの習得が必要である。
- ・要支援群の生徒に対しては、教師との1対1の対話も大切にしていくこと。
- ・班活動の充実とともに、その中における一人一人の活躍場面も確保していくことが重要となっていく。

4 研究のまとめ

【実践協力校における成果と課題】

湯梨浜町立東郷小学校

〔成果〕

(1) 担任から見た子どもたちの変容

学校生活を送る上で、子どもたちにとって必要と思われるCSSプログラムを取り入れてきた。少しずつではあるが、子どもたち同士の関わり方が円滑になってきたように感じる事ができた。

◆担任の感想より

- ・困ったときに、どう対処していいのか具体的な方法を子どもたち自身が身に付ける事ができた。
- ・学級会で学級の問題を話し合ったとき、または、学習で話し合うとき、よい聞き方、よい話し方(相手を見て、みんなに呼びかけて)が、だんだんできるようになった。
- ・友だちとの会話の中で、相手の話をよく聞く姿が見られるようになった。
- ・遊びに入れなかった子が誘ってもらえるようになったり、誘えたことを喜んだりする子が増えてきた。

◆子どもたちの感想より

・いろいろな人を笑顔で誘えてよかったです。男の子も誘えました。

・校長先生よりはやくあいさつができました。教室に入るときは、はずかしかったので、小さな声になってしまいました。こんどからは、大きな声であいさつしたいです。

(2) 取り組んで効果的だったCSSプログラム

・上手なごめんなさい ・ほめほめ大きくせん ・めざせ!聞き方ばっちりス!

・誘い上手、誘われ上手 ・目指せ!最強のリーダー、最強のメンバー など

学年、学級により、効果的なプログラムはそれぞれあったが、人間関係が円滑になったり、話合いの進め方がスムーズになったりと、学習場面でも生かすことができるようになってきた。

〔課題〕

CSSを取り入れることで、子ども同士の関係が円滑になり、また学習に対する意欲の向上がみられた。しかし、CSSの実施直後は意識が高いが、時間とともに意識が薄れていくことが課題としてあげられ、CSSを一度実施して終わりにするのではなく、同じプログラムを繰り返し実施する等、継続していくことが大切だと感じている。今後もCSSの取組を継続し、子ども同士の関わりが円滑になり、学習場面でもその良さが発揮できるように工夫改善していきたい。

琴浦町立東伯中学校

〔成果〕

(1) 学び合いを楽しんでいる生徒

◆「授業アンケート」(7月・12月実施)より

「グループでの話し合いで、自分の考えを出そうとしている」という質問にどの学年も80%~90%以上の生徒が「そう思う」「だいたいそう思う」という肯定的な回答をしている。また、自由記述の欄には、「グループでの話し合いが楽しい」「人の意見を聞いて、意外なことに気付くことがある」「全体では意見が言いにくいけれど、グループでなら言える」「わからないことが聞きやすい」などという記述があり、人の意見を聞くことで新しい発見があることや、消極的になりがちな生徒でも小グループの中でなら安心して学べると感じていることがわかった。

(2) 学び合いに積極的に取り組もうとする姿勢

◆「コミュニケーションに関するアンケート」(5月・11月実施)より

少人数での学び合いにおいて

「自分が感じ取ったことを短い言葉で伝えている」

「はい」と回答した割合 5月…17% 11月…30%

「相手の言ったことをまとめたり、言い換えたりして、整理して返している」

「はい」と回答した割合 5月…25% 11月…38%

(3) 教師の意識の変容

要支援の生徒を抽出して行動を記録することで、今まで以上に意識してその生徒を観察するようになり、少しの変化にも早く気付けるようになった。また、この記録により共通理解が容易になったことで、多くの教師の目がその生徒に向くようになり、学年を問わず声かけをすることが増えた。また、授業においても、その生徒の特徴が理解できたことで、適切な支援ができるようになった。

【課題】

(1) 効果的な SST プログラムの実施

学級の間関係の中でスキルが磨かれていくのが理想だが、それが難しい学級や学年集団の場合、時間を設定してのプログラムの実施が必要である。しかし、身に付けさせたいスキルが多すぎる場合、限られた時間の中で、何をどのように進めていくのかは大きな課題である。

(2) 小学校との連携

本校は4つの小学校から生徒が入学してくるが、SSTに取り組んでいるのは本校と同じくこの事業の実践協力校である1校だけである。すべての小学校でSSTに取り組む、小中9年間を見通した指導ができれば、小学校だけでなく中学校での学び合いにも効果的に生かせるのではないかと感じている。

【2年間の取組を終えての成果と課題】

【成果】

(1) アセスメントの重要性を啓発

分かっていたようで分かっていたQ-U等の活用について研修会を開催し、児童生徒一人一人を多面的に見とりながら、日々の具体的な支援につなげることの重要性を中部地区各小・中学校へ啓発できた。

(2) 教師の意識の変容

児童生徒の姿を「わがまま」ではなく、「困っているのではないか」ととらえ、事前アンケートを実施するなど、児童生徒の必要感に沿ったSSTが各実践協力校で取り組まれた。

(3) SSTの活用

各教室には既習のSSTの内容が掲示され、それらをもとに複数の教師が生活・学習場面においてSSTの活用を意識した声かけをしたり、学習指導案にはQ-U等のアセスメントや既習のSSTの内容を記述したりして、学校生活全体におけるSSTの体験学習を充実させ、スキル獲得につなげていった。

【課題】

(1) 教科とSSTの目標の明確化

人間関係づくりの一手段としてのSSTであることを確認しながら、授業におけるSSTの目標と教科の目標を明確にしながら授業実践することが重要。

(2) SSTの日常化

将来的に、一単位時間で取り扱うSSTから、日常生活（朝の会等の短時間扱い）におけるSSTへ移行する必要がある。また、SSTプログラムの内容が日常生活を送る上で必要とされるスキルのものさしであることを意識した学級経営の重要性を感じる。

第4学年 国語科学習指導案

2011年11月22日

1. 単元名 読み手の興味を引く学級新聞を作ろう

「みんなで新聞を作ろう」

2. 単元について

○本単元では、調べたことを新聞形式で書く言語活動を通して、必要な情報を集め、調べたいこと
の中心を考えて、読み手に分かりやすく出来事を伝える文章を書く力をつけることをねらいとして
いる。そのために、まず新聞の形式と特徴について学び、それから新聞で伝えたいことを考え、取
材する活動を行う。取材したことを整理して書く活動の中で、事実と意見を区別して書くこと、読
み手の興味を引きつける見出しの立て方や割り付けの工夫など、より読み手を意識した書き方を学
ぶことになる。友だちへの関心が広がり、相手を意識して行動できるようになってきたこの時期に
友だちと協力し、伝えたいことを整理して書く力をつけることを目指して本単元を設定した。

(略)

○本単元をすすめるにあたって、次のことを考えていきたい。

主体的に学習活動にかかわるために

本単元はグループでの協同作業である。まず、学習の流れを提示し、学習の見通しを持たせたい。
新聞作りの計画から取材、下書き、推敲、仕上げなどの作業を、児童に互いに意見を出し合わせな
がら進めたい。役割分担は個人作業、推敲はグループとするなど活動形態を示しながら、本時学習
のねらいをはっきり持たせ、一人一人に主体的にかかわらせたい。

思いを表現するために

取材したことを整理して書く活動の中で、学級の友だち同士で読み合うことをめざし、事実と意
見を区別して書くこと、読み手の興味を引きつける見出しの立て方や割り付けの工夫など、より読
み手を意識した書き方ができるようにしたい。また、交流活動では、書き手の表現の良さを見つけ
合い、お互いを認め合う姿勢を大切にしたい。

【Q-Uの結果から】

様々な学習場面でグループ活動を増やし、友だちとの協同作業や話し合いの楽しさを味わわせた
い。その中で一人一人の考えや思いを聞き合い、尊重し高め合える人間関係づくりにつとめたい。
本単元はC S Sを生かす活動そのものである。今までC S Sで学んだ「話し合い」「声をかけ合お
う」のスキルを使って、自分たちの力による話し合いができるよう進めていきたい。

【4月から取り組んできたC S S】

「あいさつの達人」

「声をかけ合おう」

「話し合い」

「みんなで決めたルールを守ろう」

3. 単元目標

- 取材したことを整理して、分かりやすい記事を書く。（書くこと）
- 読み手の興味をひく書き方を工夫する。（関心・意欲・態度）

4. 単元の評価規準

ア国語への関心・意欲・態度	ウ書くこと	オ言語についての知識・理解・技能
①調べたことを新聞の形で伝えることに興味を持ち、読み手を意識した新聞作りに意欲的に取り組もうとしている。 ②新聞を読み合い、表現の工夫などについて感想を伝え合っている。	①新聞の形式を知り、全体の割り付けや見出しの立て方について考えている。 ②取材の計画をもとに、取材の内容や方法を決め、取材している。 ③出来事を伝えるために大事なことを落とさずに書いたり、分かりやすくなるよう資料を取り入れたりしている。 ④グループで下書きを読み合い、よりよい表現になるよう助言したり修正したりしている。	①修飾と被修飾との関係など、文の構成を考え文章を書いている。 ②事実と意見を区別して書いている。 ③敬体と常体との違いに注意して書いている。

5. 単元構成（全12時間）

次	時間	主な学習活動	評価基準	支援（・）と評価（☆）
ねらいを確かめ、学習の見通しを持つ				
一	1	学習のねらいと流れを確かめ、教科書の新聞例や身の回りの新聞を見て、新聞の形式や特徴を知る。	ア①	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども新聞を見て、どんな記事が載っているか見つけ、出し合う。 ☆新聞記事の形式や特徴に気づくことができる。
	2	学習活動の流れを知り、全体の学習計画を立てる。	ア①	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞作りの手順を、教科書を読んで書き出し、学級全体の学習計画を示す。
新聞作りの計画を立て、新聞を作ろう				
二	1	グループで新聞作りの計画を立てる。 ・話し合ったことをもとに、題材を集める。	ア①	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマを決めた新聞にするか、様々な情報を盛り込んだ新聞にするかを決めさせる。 ・ニュースになる話題や身の回りで疑問に思ったり驚いたりしたことから題材を集めさせる。記事にしたい題材があれば、メモするよう伝える。 ☆グループで題材を集めることができる。

2	集めた題材をもとに割り付けを考え、記事を分担する。	ウ①	<ul style="list-style-type: none"> ・伝えたい思いや読み手の興味を考え、どの題材の記事にするか、どれを一番強調したいかを話し合わせる。 ・割り付けについて、記事の分量や配置を考えさせる。 <p>☆グループで話し合っ、割り付けと記事の分担を決めることができる。</p>
3	取材の計画を立て、取材のための準備をする。	ウ②	<ul style="list-style-type: none"> ・記事を書くために、どんなことを知りたいか考えさせる。 ・担当する記事について、取材する内容、取材の方法を決めさせる。 ・地域で取材する場合は、前もって休日を利用して取材しておくよう伝える。 ・アンケート、インタビューをする場合は、前もってお願いしておくよう伝える。 <p>☆担当する記事の取材内容、方法を決めることができる。</p>
4	取材活動を行う。	ウ②	<ul style="list-style-type: none"> ・取材に入る前、気をつけることを確認する。 <p>☆様々な方法で取材し、必要な情報を集めることができる。</p>
5	取材して分かったことを整理し、記事の下書きを書く。	ウ③	<ul style="list-style-type: none"> ・記事を書くときの注意点を確認し、それに気をつけて、下書き用の紙に書かせる。
6	見出しを考える	オ①	<ul style="list-style-type: none"> ・写真やグラフを取り入れる場合は、その資料で伝えたいことを書くよう助言する。
7	下書きをグループで読み合っ、推敲し、分かりやすい記事を書くことができる。【本時7／8】	オ② ウ④ オ③	<ul style="list-style-type: none"> ・書けない児童には、取材メモから大事なことに線を引かせる。 ・書いた記事の中で一番伝えたいことに線を引かせ、そこから見出しを考えさせるようにする。 <p>☆分かりやすく伝えるために、大事なことをおとさずに下書きを書いている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで下書きを読み合い、記事の良い点、改善した方がよい点をふせんに書かせ、意見を交流させる。 ・伝えたいことが明確か、読み手に分かりやすい表現になっているか、よりよい表現はないか話し合わせる。 <p>☆グループで下書きを読み合い、より良い表現になるように意見を出し合っている。</p>

	8	推敲した下書きをもとに、清書し、台紙にはって、新聞を完成する。	ア①	<ul style="list-style-type: none"> ・割り付けをもとに、記事の大きさの用紙を準備し、清書させる。 ・見出しや囲みの部分に使えるよう色鉛筆、マジックの準備をしておく。 ☆グループでより良い新聞になるよう、協力している。
感想を交流し、学習を振り返ろう				
三	1	・作った新聞を読み合い、感想や意見を伝え合う。	ア②	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれのグループの新聞を掲示して読み合い、一通り読んだ後に、グループごとに発表させ、意見を交流させる。 ・分かりやすい新聞にするためのめあてを再確認させる。 ☆読み手は、めあてにそった感想を発表している。
	2	・自分たちの作った新聞について、グループで振り返る。		<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの作った新聞の良かった点、反省点をグループ内で交流させる。 ☆お互いに良いところを認め合っている。

6. 本時の学習

- (1) 目標 下書きをグループで読み合って推敲し、分かりやすく、読み手をひきつける記事を書くことができる。
- (2) 準備 学習計画表、短冊、教材提示装置、付箋、話し合いのマニュアル（CSS）
- (3) 学習過程

学習活動	(○) 主な発問 (・) 予想される児童の反応	(・) 教師の支援と評価 (評) 評価	CSSとの関連【 】期待する姿
1 本時の学習のめあてをつかむ。		<ul style="list-style-type: none"> ・学習計画表を見て、今日することを確認する。 	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 下書きを推敲し、分かりやすく、読み手をひきつける記事を書こう。 </div>			

<p>2 教科書「言葉の力」を読む。 学習のやり方の説明を聞く。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・記事を推敲する視点を、提示する。 *大事なことを落とさない 「いつ」「どこで」「だれが」「何を」「どうした」 *事実と意見を区別して書く *絵、グラフ、写真 *見出しの書き方 ・学習の手順を説明する。 	
<p>3 グループで読み合って推敲する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで下書きを読み合う。 ・記事の良い点、改善した方がよい点をふせんに書く。 ・意見交流をして、記事を直す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「だれが」が抜けている。 ・見出しの言葉を変えた方がいい。 ・事実と意見が混ざっていて分かりにくい。 ・写真か絵を入れるといい。 ・字をもっとていねいに書く方がいい。 ・習った漢字は使おう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・良い点は、○をつけて、改善した方がよい点は△をつけてふせんに書き、それぞれの記事にはらせる。 (評) 良い点、改善点をふせんに書くことができる。 ・ふせんをもとに意見を交流させる。 ・赤ペンで記事を直させる。 (評) 友だちの意見を聞き分かりやすい記事に直すことができる。 ・グループで代表1人に発表するよう促す。 ・倒置法を使っていれば、紹介する。 	<p>CSSの「話し合い」を使って、司会者に進めさせる。</p> <p>【自分の考えを自分の言葉で言う】</p> <p>「声をかけ合おう」を意識して友だちの記事にアドバイスする。</p>
<p>4 全体で、自分たちが推敲した所を伝え合う。</p>			
<p>5 特に良い推敲をした記事を紹介する。</p>			
<p>6 次時の学習内容を確認する。</p>			

1 単元名 東アジア世界とのかかわりと社会の変動 ～モンゴルの襲来と日本～

2 単元について

本単元は、〔中学校学習指導要領 社会科歴史的分野 内容（3）ア

・武士が台頭し武家政権が成立したこととその後の武家社会の展開を鎌倉幕府の成立南北朝の争乱と室町幕府、応仁の乱後の社会的な変動を通して理解させるとともに、元寇、日明貿易、琉球の国際的な役割など、その間の東アジア世界とのかかわりに気付かせる。

を受けて設定したものである。

中世は、「文（公家政権）から武（武家政権）」への政権の過渡期であり形成期である。だがそれは、単なる文から武への移行ではない。「武が文を取り込む」ことで、政権移行がなされていく。この単元では、二つの具体的事例「鎌倉幕府」「室町幕府」を通し、前単元と連続して「どのように武家政権は確立されていくのか。」「武力による支配のしくみとはいかなるものか。」を考察し、理解することを目標とする。その際、特に注目すべきは、各政権の崩壊期である。「モンゴル襲来後の鎌倉幕府」「応仁の乱後の室町幕府」が、なぜ崩壊することになったのかを考えることで、各政権の成立期で学習した支配構造を再度検証し、武家政権・武士の時代への認識を確かなものとしたい。

また、この時代は、モンゴル帝国・元の成立により世界はグローバル化の進展（アジアとヨーロッパの結合）を見た。中世の武家政権を理解していくには、中国を中心とした東アジア世界とのかかわりの中で日本社会をとらえることが必要である。加えて、武家政権確立期中の中世日本は、内外ともに大変動の時期の中、民衆の力が大きく成長し経済的・文化的発展をみた時期でもある。

「政権と民衆」、「内政と外交」、「国内産業と貿易」、このような複眼的学習を進めることで、さらに中世日本の理解を深めたいと考える。

本学級は、男子13名、女子14名、計27名のクラスである。前向きな面としては、男子を中心として、自分の考えが発言できる、「わからないことがわからない」と言える生徒が見られることである。一方、課題としていることは、自らの意思表示に困難を感じ、発言などの自己表現を苦手とする生徒も多いということである。社会科の授業においては、予習課題など事前に取り組んでいる教科書レベルの内容に対しては全体の雰囲気の中で多くの生徒が発言できるが、教科書レベルを超え個人の考えを問われる場面では発言を躊躇する生徒が多い。

生徒たちのクラス評価を見ると、「人の話を聞くこと」や「話し合いに参加すること」に、がんばっていると感じる生徒が多い。一方で「発言者に対して反応すること」や「自分の意見を発表すること」は、あまりできていないように感じている。「間違っはいけない」、「まわりの人から冷やかされたくない」と考える現状が少なからずある。

指導にあたっては、まずテンポ良く全体で共有すべき教科書レベルの知識を確認していきたい。そのために毎時間、個人に対し教科書を読み取る予習プリントを課題として出している。この時点で、大まかに授業に向けての基本的知識の確認や意欲づけがなされる。

次に、共有した知識をもとに、本時の目標につながる中心発問の学び合いに移りたい。教科書レベル

の共有すべき知識は、できるだけ短時間にポイントをしぼりクラス全体で確認し、中心発問の学び合いに時間を取りたい。

また、使用する資料は厳選し、それをもとに本時目標にせまる適切な課題を設定したい。資料も課題もできる限りシンプルな形で提示し、生徒たちの思考を深め、広げるものとしていきたい。

3 単元目標

○ 鎌倉幕府滅亡後の武家社会の展開・室町時代の諸産業の発達と社会の変化に対する関心を高め、意欲的に追究している。【社会的事象への関心・意欲・態度】

○ 鎌倉幕府滅亡・南北朝の争乱応仁の乱などの社会的変動を通して、歴史の流れと時代の特色を多面的多角的に考察している。

室町時代の諸産業の発達と社会の変化、新たな文化の特色を代表的事例を取り上げながら多面的多角的に考察している。【社会的な思考・判断】

○ 鎌倉幕府滅亡後から戦国大名登場までの武家社会の展開に関する絵画や文献などの資料を考察した結果をまとめたり、説明したりしている。

室町時代の諸産業の発達と社会の変化、新たな文化に関する絵画や文献などの資料を考察した結果をまとめたり、説明したりしている。【資料活用の技能・表現】

○ 鎌倉幕府滅亡後の武家社会の展開を理解するとともに、その間の東アジア世界とのかかわりに気付き、その知識を身に付けている。

中世の諸産業の発達と社会の変化、新たな文化の特色を理解し、その知識を身に付けている。【社会的事象についての知識・理解】

4 単元の評価規準

内容のまとめりごとの評価規準	単元の評価規準	学習活動における具体的評価規準
【ア 社会的事象への関心・意欲・態度】		
武家政権の成立とその後の政治、社会、文化の動きに対する関心を高め、意欲的に追究し文化遺産を尊重しようとする。	・鎌倉幕府滅亡後の武家社会の展開・室町時代の諸産業の発達と社会の変化に対する関心を高め、意欲的に追究している。	①なぜ、室町時代の後半に戦国大名が登場したのか、戦国大名への関心を高め、その理由を意欲的に追究できる。 ②現代に受け継がれる室町文化の具体例を意欲的に追究することができる。

【イ 社会的な思考・判断】		
<p>武家政権の成立とその後の政治、社会、文化の動きから課題を見だし、歴史の流れと時代の特色を多面的・多角的に考察している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・鎌倉幕府滅亡・南北朝の争乱・応仁の乱などの社会的変動を通して、歴史の流れと時代の特色を多面的多角的に考察している。 ・室町時代の諸産業の発達と社会の変化、新たな文化の特色を代表的事例を取り上げながら多面的多角的に考察している。 	<ul style="list-style-type: none"> ①モンゴル襲来が、御家人にあたえた影響を予想し、考えることができる。 ②建武の新政が、わずか2年あまりでくずれた理由を後醍醐天皇のとした政策をもとに考えることができる。 ③農村で土一揆が起こるようになった理由を農業の発達・諸産業の発達と関連させて考えることができる。
【ウ 資料活用の技能・表現】		
<p>武家政権の成立とその後の政治、社会、文化、の動きに関する様々な資料を収集し、適切に選択し活用するとともに、追究し考察した結果をまとめたり、説明したりしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・鎌倉幕府滅亡後から戦国大名登場までの武家社会の展開に関する絵画や文献などの資料を考察した結果をまとめたり、説明したりしている。 ・室町時代の諸産業の発達と社会の変化、新たな文化に関する絵画や文献などの資料を考察した結果をまとめたり、説明したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ①室町時代の東アジアの略地図を書き、日本・中国・朝鮮・琉球・蝦夷地がどのように海を通し交流し、つながっていたか説明することができる。 ②金閣、銀閣の写真資料をもとに、室町文化の特徴を比較し説明できる。
【エ 社会的事象についての知識・理解】		
<p>武家政権の成立とその後の政治、社会、文化の動きを、我が国の歴史とかかわる東アジア世界の歴史を背景に理解し、その知識を身につけている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・鎌倉幕府滅亡後の武家社会の展開を理解するとともに、その間の東アジア世界とのかかわりに気付き、その知識を身に付けている。 ・中世の諸産業の発達と社会の変化、新たな文化の特色を理解し、その知識を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ①鎌倉幕府の根幹をなす将軍と御家人の主従関係（御恩と奉公の関係）をモンゴル襲来という出来事を通して理解できる。 ②室町幕府がどのように全国の武士をまとめ、本格的武家政権となっていたか理解し、その知識を身に付けている。 ③室町時代の諸産業の発達を業種ごとに整理し、まとめることができる知識を身に付けている。

5 指導計画及び評価計画

時間	ねらいと学習活動	学習活動における具体的評価規準との関連	評価方法
第1次 本時	<p>◎モンゴルの襲来と日本</p> <ul style="list-style-type: none"> 鎌倉幕府の根幹をなす将軍と御家人の主従関係（御恩と奉公の関係）をモンゴル襲来という出来事を通して理解できる。 モンゴル襲来が、御家人に与えた影響を予想し、考えることができる。 	<p>エの①</p> <p>イの①</p>	<p>観察（様子・発言）</p> <p>予習プリント</p> <p>テスト</p> <p>ノート</p>
第2次	<p>◎南北朝の動乱と東アジアの変動</p> <ul style="list-style-type: none"> 建武の新政が、わずか2年あまりでくずれた理由を後醍醐天皇のとった政策をもとに考えることができる。 室町時代の東アジアの略地図を書き、日本・中国・朝鮮・琉球・蝦夷地がどのように海を通し交流し、つながっていたか説明することができる。 	<p>イの②</p> <p>ウの①</p>	<p>観察（様子・発言）</p> <p>予習プリント</p> <p>テスト</p> <p>ノート</p>
第3次	<p>◎室町幕府と経済の発展</p> <ul style="list-style-type: none"> 室町幕府がどのように全国の武士をまとめ、本格的武家政権となっていたか理解し、その知識を身に付けている。 室町時代の諸産業の発達を業種ごとに整理し、まとめることができる知識を身に付けている。 	<p>エの②</p> <p>エの③</p>	<p>観察（様子・発言）</p> <p>予習プリント</p> <p>テスト</p> <p>ノート</p>
第4次	<p>◎民衆の成長と戦国大名</p> <ul style="list-style-type: none"> 農村で土一揆が起こるようになった理由を農業の発達 諸産業の発達と関連させて考えることができる。 なぜ、室町時代の後半に戦国大名が登場したのか、戦国大名への関心を高め、その理由を意欲的に追究できる。 	<p>イの③</p> <p>アの①</p>	<p>観察（様子・発言）</p> <p>予習プリント</p> <p>テスト</p> <p>ノート</p>
第5次	<p>◎室町文化の広がり</p> <ul style="list-style-type: none"> 金閣、銀閣の写真資料をもとに、室町文化の特徴を比較し説明できる。 現代に受け継がれる室町文化の具体例を意欲的に追究することができる。 	<p>ウの②</p> <p>アの②</p>	<p>観察（様子・発言）</p> <p>予習プリント</p> <p>テスト</p> <p>ノート</p>

6 本時の学習

(1) 本時の目標

①鎌倉幕府の根幹をなす将軍と御家人の主従関係（御恩と奉公の関係）をモンゴル襲来という事例を通して理解する。【知識・理解】

②モンゴル襲来が、御家人にあたえた影響を予想し、考えることができる。

【思考・判断】

(2) 評価のための生徒の具体的な姿

十分満足できる（A） と判断される状況	おおむね満足できる（B） と判断される状況	努力を要する生徒への 手だて
元との戦いに御家人が参加した理由を御恩と奉公の2観点と結びつけることができる。	元との戦いに御家人が参加した理由を御恩と奉公のいずれかの観点と結びつけることができる。	元との戦いに御家人が参加することで誰が得をするのか考えさせる。
モンゴル襲来の後、御家人たちがどのような考えを持ち、行動したか理由とともに説明できる。	モンゴル襲来の後、御家人たちがどのような考えを持ち、行動したか考えることができる。	永仁の徳政令を資料として示し、当時の御家人たちが経済的にどのような状況であったか考えさせる。

(3) 準備

- ・モンゴル帝国の最大領域がわかる地図
- ・チンギスハン、フビライハンの肖像画
- ・蒙古襲来絵詞「元軍と戦う武士」
- ・北条時宗の肖像画
- ・元の国書要約

(4) 学習過程

学習内容 ・学習活動	主な発問 (○) と 予想される生徒の反応 (・)	教師の支援 (・) と 評価の視点	質問紙やSSTとの 関連・集団や個への支援
<p>1, 元とはどのような国か予習プリントをもとに発表し、まとめる。 (一斉・15分)</p> <p>2, モンゴル襲来を題材とし、将軍と御家人との関係を理解する。 (個人→班・15分)</p> <p>3, モンゴル襲来後の鎌倉幕府と御家人の関係を予想する。 (個人→班・15分)</p>	<p>○モンゴル帝国はいつ、どこで、誰によって建設された国か? (資料: モンゴル帝国最大領域図、チンギスハン肖像画)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・13世紀 ・モンゴル高原を中心にユーラシア大陸全体 ・チンギスハン <p>○国号を元と定めて皇帝になったのは誰か? (資料: フビライ肖像画)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フビライ <p>○元の使者へ、北条時宗はどのような対応をしたか? (資料: 蒙古襲来絵詞、北条時宗肖像画、元の国書要約)</p> <ul style="list-style-type: none"> ①丁寧に迎えた。 ②無視した。 ③殺した。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>なぜ、御家人たちは、元との戦いに参加したのだろうか?</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・将軍の命令だから (将軍への奉公) ・恩賞がほしいから (経済的にとても困っていた) ・日本を守りたいから <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>恩賞をもらうことのできなかった御家人たちは、今後どのような行動をとるだろうか?</p> </div>	<p>・テンポ良く発問し、発表のリズムをつくる。</p> <p>・問題を焦点化しやすいように3択問題として考えさせる。当時の日本における幕府の立場を確認する。</p> <p>・御恩と奉公の関係に注目させ、御家人が元との戦いに参加した理由を各班ごとに発表させる。 (評価)</p> <p>モンゴル襲来を通して将軍と御家人の主従関係について、理解できる。 【社会的事象の知識</p> <p>・理解】</p> <p>・与える領地のない幕府からは御家人への恩賞がほとんどなかったことを説明する。挙手により御家人たちの今後の行動を予想することができたか確認</p>	<p>・発言に対しては必ず反応するよう意識づける。 【同じ意見に対しては、「同じです。」と反応する。】</p> <p>・聞く態度の確認を行う。 【発言者に体を向ける】</p> <p>・班の話し合いでの、司会・記録</p> <p>・発表の3役を指定する【それぞれの役割を果たす。】。</p> <p>・班の話し合いでは、必ず一人一意見以上出すことを確認する。 【自分の意見を考えることができなくとも、他の意見で一番共感できる意見をみつける】</p>

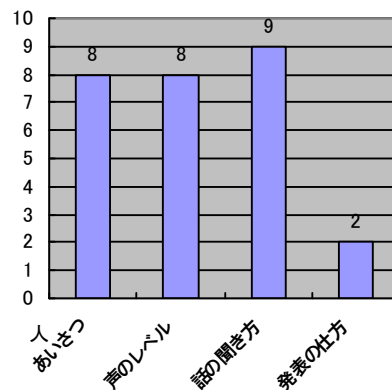
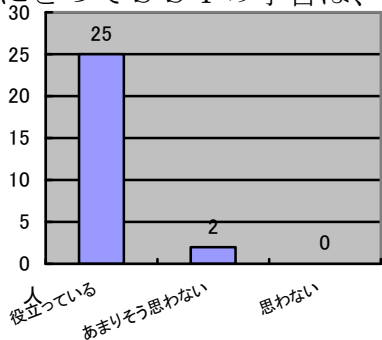
分)	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が将軍になろうとする ・新しい将軍をたてる ・将軍（幕府）を倒す ・団結して幕府の領地を奪う ・御恩と奉公の関係をやめる （御家人をやめる） ・自分でもうける方法を考える ・元まで行って土地をとる ・元の皇帝と主従関係を結ぶ 	し、発表させる。 〈評価〉 モンゴル襲来が御家人与 えた影響を予想し、考える ことができる。 【社会的な思考・判 断・表現】	
----	--	--	--

S Tアンケート 結果 学級生徒数（27人）

【今までの振り返り】

- 1 今までに学習した、「あいさつの方法」「声の大きさレベル」「話の聞き方」「発表の方法」など、意識しながら生活の中、授業の中で生かそうとしていますか。

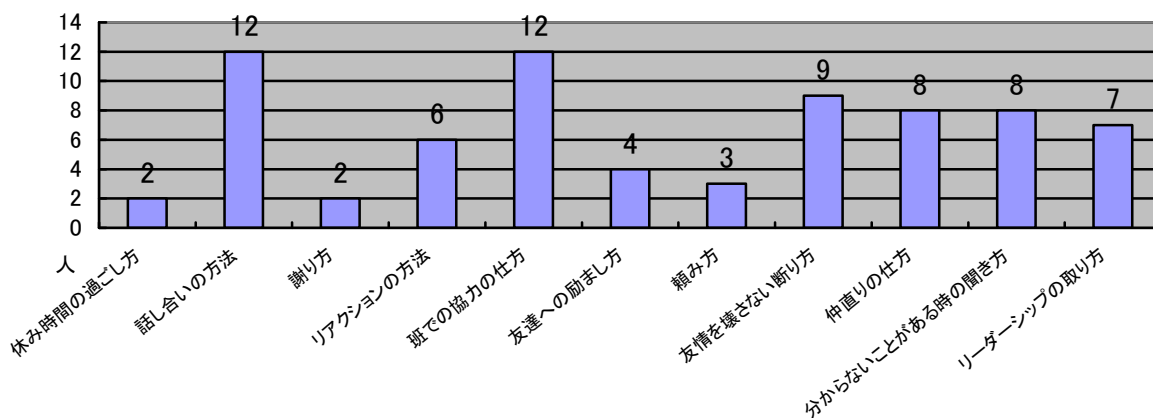
- 2 あなたにとってSSTの学習は、役立っているとおもいますか。



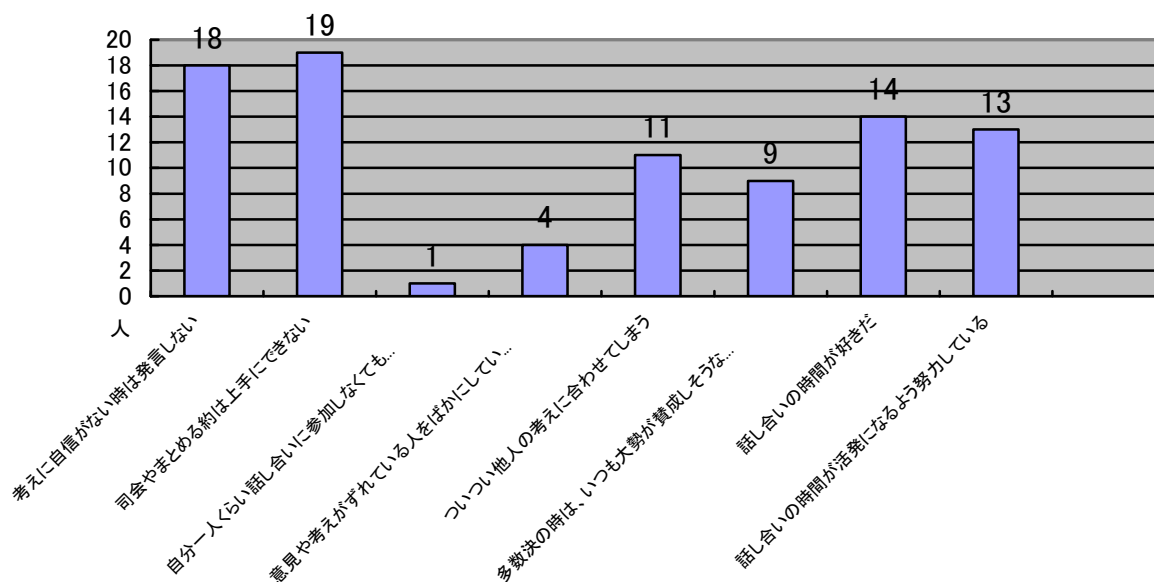
- 3 今まで学習した4つのSSTの中で、一番自分に効果がある（役立っている）のはどのSSTですか。

【これからの学習】

- 4 これからも何度かSSTの学習をしていきますが、どんなSSTが自分には役立つと思いますか。次の中から自由に選んでください。（複数回答可）



- 5 次回は話し合いの仕方について学習していく予定ですが、普段の班での話し合いの仕方を振り返り、当てはまる項目を選んでください。（複数回答可）



第1学年 学級活動指導案

日時 2011年6月29日(水) 第5限

1 題材名 「話し合いの進め方」(小集団内で仲間とかかわるうえでのプログラム)

2 生徒の実態 (27名 男子16名、女子11名)

①学級の様子

本学級の生徒は、明るく元気で、素直な生徒が多い。また、真面目なところもあり、当番活動など決められた仕事をきちんとやり遂げようとすることもできる。休憩時間などは、友達とじゃれ合ったりを動かしたりと活発に活動する姿や、男女一緒に会話を楽しむ光景も見られる。しかし、1小学校から入学し、新しい人間関係をつくるのが難しい環境からか、大小いくつものグループが存在し、それぞれが一緒に活動することはできても、他のグループの人たちと自ら積極的に関わり合おうとする姿は少ない。給食時間や班の話し合いの活動場面においても、班を飛び越えて自分の気の合う仲間と話をしようとする生徒も見られる。

各教科の授業においては、個々が学習を頑張りたいという思いは強いが、自ら進んで発表することや、自分の考えを言葉で表したり、文章にしたりすることに苦手意識を持っている生徒が多い。仲間と学習課題について話し合いをする場面においても、意見を言わない、だまっているなど、話し合いに参加していない生徒もいるという現状がある。また、授業中に周囲の雰囲気を考えないで自己中心的な言動をする生徒もあり、集中して学習に取り組みたい生徒の気持ちを察することができない状況も時々見られる。

日ごろの生活の問題を話し合いで解決していく力や、自分の気持ちをコントロールする力、親しくない人とでも区別しないで班活動をする意欲は十分に育っているとは言えないと考えている。

②質問紙の考察

5月末に生徒の学校生活の実態をとらえるため、教育局質問紙調査アンケートを実施した。

全体的な傾向として、6項目中、5項目(生活満足感・教師サポート・友人サポート・非侵害的關係・学習適応)については、生活全体に対して満足や楽しさを感じている平均的な適応度以上の結果が出た。(略)

これらの結果より、日々の学級生活と同じく、人との関わり方に対する不安を持っている生徒が多いことが分かった。

3 題材設定

思春期の中学生は、周囲の目を気にしすぎて自分の意思に反して行動したり、周囲とのかかわり方が分からず友人関係のトラブルを起こしてしまったりすることが時にある。しかし、成長をとげながら自己を確立していくためには、対人関係における相手への気づかい、人とかかわるきっかけづくり、対人関係の維持、集団活動に主体的に関わる姿勢など能動的な行動が必要とされる。自ら主体的に人とかかわり合う力は、人とかかわり方について、体験を通して知ることにより生まれてくると考え

る。そのため、生徒たちの喜びや満足感につながる取り組みをしていきたいと考えた。

本学級では、これまでに「あいさつ」、「声の大きさ」、「話の聞き方」「発言の仕方」に関する SST を実践している。教室にはこれまでに学習した SST のポイントを掲示し、日々の短学活や授業の中で折に触れながらスキルの定着を図っている。トレーニングを継続的に実施していくことで、生徒自ら、「次回はこんな SST をしたい」という意欲的な言葉が出てきたり、班での話し合いの仕方に困り感を感じている班長からは、「司会の仕方を知りたい」という声も出てきたりしている。さらには、計画的に SST を実施していくことで、それぞれに応じたスキルを習得していきたいという思いが生まれてきている生徒もいる。

これらの実態をもとに、「今まで学習したこと」の振り返りと、「これから学習していきたいこと」とにテーマを分け、アンケートを実施してみた。（別紙参照）

アンケートの結果から、学級全員が SST を意識しながら生活し、役立っているという結果が出た。また、集団内で級友や班員とかかわる上でのスキル「話の聞き方」に効果を感じていることも明らかになった。

これから学習していきたい SST については、「話し合いの方法」、「班での協力の仕方」など小集団の活動に関するものが多かった。実際、普段の授業の話し合いの様子を見ている、意見を言う人、言わない人、時間が足りず話し合いが不十分な状態で終わるなど困り感を感じている生徒もいる。また、班長からは、学習目標を達成していくための司会の方法を学びたいという声も上がっている。

以上のような結果と学級の実態をふまえ、自分たちの手で自分たちの学習や生活を改善していこうとする態度を育てていきたいと考え、授業で活用できる話し合いの方法を身につけさせたい。

また、話し合いの方法に、4月から取り組んできたトレーニングの内容を取り入れ、計画的に実践を積み重ねることで、小集団で班員や級友とかかわる上でのスキルの活用レベルを上げていきたいと考えた。授業の中での話し合いを通して、誰とでもかかわり合える力を育てたいと思い、今回の題材を設定した。

4 指導にあたって

本学級の課題である向社会性スキルのレベルアップのために、行動の仕方を明確にしたいと考えた。そのため、話し合いをスムーズに進行し、一人ひとりの考えをまとめていくことができるよう、話し合いの場面では役割を設定していく。また、まずはシナリオを使い、話し合いの仕方のモデルを提示していく。そして、「仲間の意見や考えを聞く」、「自分の考えを相手に分かりやすいように話す」などこれまでに学習したトレーニングの内容を意識しながら学習を進め、話し合いの方法を習得できるようにしていきたい。

本校の研究テーマである「協同学習」の研究をさらに深く進め、生徒同士がかかわり合い主体的に学習できる力を育成するためにも SST は必要不可欠であると感じている。そこで、学習に活用できる話し合いの方法を習得することで、お互いの学びをより深めることができるよう展開していきたい。

5 今までに取り組んだ SST のプログラム

月	題材名	内容
4月中旬	基本的なあいさつ	あいさつをする時の姿勢と場に応じたあいさつの仕方
5月上旬	声の大きさレベル	場面に応じた聞き取りやすく、伝わりやすい声の大きさ
5月下旬	話の聞き方	相手を大切に話の聞き方
6月中旬	発言の仕方	自分の考えを伝える授業での発言の仕方

6 本時の活動

- (1) ねらい
- ・スムーズな話し合いの方法をシナリオを通して体験する。
 - ・一人ひとりが話し合いに主体的に参加し、仲間で意見を出し合うことの満足感を得る。

(2) 本時の過程

時	トレーニングの流れ	生徒の活動	指導上の留意点(○)・資料など(◇)
導入 8分	1 意義の説明	・本時のねらいと活動内容を知る。	
	2 トレーニングの動機づけ	・SST アンケートの結果から、自分たちの現在地とこれから学ぶスキルを結びつける。	○話し合いに参加している人全員が意見を言うことのよさとは何か考えられるように伝える。 ◇アンケート結果を配布する。 ○これからのめあてとこれからの活動につなげていく。
展開 35分	3 話し合いの進め方のモデリングを示す	・話し合いをするためのポイントを知る ・シナリオを見ながら話し合いの進め方を聞く。	◇話し合いをスムーズに進めるためのポイントを提示する。 ◇シナリオを配布する。 ○今まで学習した SST も意識しながら進めていくことを確認する。 ○体験活動をしっかりと進められるよう個々でシナリオを読む時間を設定する。(2分)
	4 話し合いを体験する	・シナリオに沿って話し合いを進め	

・ スムーズに話し合いをするための方法を体験する。
・ 役割と話し合いのポイントを意識することで、目的を達成するための意見や考えが出る。

・ 班での話し司会やまとめる役が上手にできない。→司会の方法について学ぶ。司会者だけに頼らず、誰もが話し合いの一員であることを自覚する。(役割分担)
・ 考えに自信がない時は発言しない。他の人の意見に合わせてしまう。→たくさんの意見が出た方がよりよい考えにつながっていく。メンバー全員が話し合いに参加できる状況をつくる。(全員が発言しやすい司会進行と発言の仕方)
・ 合いの時間が好き→話し合いをする方が自分の意見を言いやすい。たくさんの意見やアイデアが出てきて、学習が深まることにつながる。

① 班で話し合いの隊形になる。
② 話し合いのシナリオの使い方を説明する。
③ 演習1, 2の役割を決め、役割の内容を説明をする。
司会者(1) 記録者(1) 発表者(1) 発言開始者(1, 2)
④学習してきたスキルの活用(話の聞き方・発言の方法・声の大きさレベル)を促す。

ていく。

- ① 話し合いの題材の提示をする。
- ② 話し合いを始める。
- ③ それぞれが順番に意見と理由を言い、聞き合う。記録者はメモをとっていく。
- ④ 司会者は意見をまとめていく。発表者は発表できるようにシナリオにはめていく。
- ⑤ 話し合いを終わる。

【演習1】

みんなの意見を聞く

一緒に生活するなら、ドラえもとピカチュウどちらを選びますか。

- ・役割を交代する

【演習2】

考えを一つにまとめる

栄養バランスが整った食事にするために、この献立に1品付け加えたとしたら3つのうちからどの献立を選びますか。

- ・振り返りシートに記入し、本時の体験活動について、うまくいった点や改善点について話し合う。

- ◇話し合いの題材を設定する。
- 話し合いの時間を設定する(7分)
- 机間巡視をしながら、話し方・聞き方を意識するようアドバイスしていく。
- 今回は、話し合いの方法の習得なので、全体発表の場は設定しない。
- 全員が発言できたことを確認する。

振
り
返
り
7
分

5 学習の振り返り

- 学習したスキルを使いながら、自分の右隣の人の他者評価をする。

6 チャレンジ期間を設定する。

- ・チャレンジ期間の自分の目標設定をする。

- 話し合いの方法を教科学習や学活時に使うよう促す。